

大久保領家廃寺跡・宿宮前遺跡(さいたま市)

鴨川沿いの奈良・平安時代の遺跡(荒川沿いの低地には条里制の名残をとどめる大久保条里が広がっている)





現在の荒川総合運動公園の一带が条里制の名残をとどめる(中央左)

南与野駅から埼玉大学方面に歩き、本村遺跡と道場寺院跡に挟まれた鴨川の土手(道場寺院跡側)から見る



左手が道場寺院跡方向、右手が本村遺跡方向

本村遺跡方向



鴨川はかつて荒川の本流であったとのこと

道場寺院跡方向であるが今は全くの住宅地となっている



大久保領家片町遺跡方向であるがこれも全くの住宅地となっている



右手方向が大久保領家遺跡のあたりであるが、これも全くの住宅地となっている



以上、道場寺院跡・大久保領家片町遺跡・大久保領家遺跡全域が「大久保領家廃寺」と呼ばれている
特に遺跡表示などが見当たらなかったがその点では府中市のような懇切丁寧な案内表示がこういった史跡・文化財にはほしいものである

大久保領家片町遺跡範囲にあった大泉院というお寺



山門



本堂





参考ホームページ http://www.saitamacci.or.jp/exploration/course_08/daisenin.asp

本堂妻面



鐘樓



観音堂？



次の目的の宿宮前遺跡へ向かう道すがら、鴨川にかかる橋から左手に大久保領家廃寺方向を見る



その橋から見る古貝戸遺跡方向



その橋から見る宿宮前寺院跡方向



少し歩き、宿宮前遺跡一带を見る



周辺は奈良時代から平安時代の遺跡が多い地域である

こちらは在家稲荷遺跡方向



この荒川総合運動公園一帯には大久保条里が広がっていたという(南方向)



北方向



また歩き、市民医療センター付近より根切遺跡方向を見る



だいぶ歩き、中野林袋遺跡方向を見る



正面は林光寺



この一帯が林光寺遺跡と呼ばれ、旧足立神社があったと推定されている



仁王門





参考ホームページ http://www.citydo.com/prf/saitama/area_saitama/kenbun/rekishi/saitama046.html

本堂





鐘楼



八角堂





大宮市指定文化財

絵画

林光寺絹本着色真言八祖画像

縦 七九cm 横 三八・五cm

数量 八幅

指定 昭和三十三年三月六日



林光寺の開創は古く平安時代までさかのぼると伝え、市内の真言宗寺院のなかでも古く由緒あるお寺です。平安時代の初期、中国で密教を学んだ空海は帰国後、各地に新しい仏教・真言宗を広めます。のちに真言宗の各寺院では空海が中国から持ち帰った金剛智・善無畏・不空・一行・慧果の肖像と竜猛・竜智・空海を含めた三人、あわせて八人の僧の肖像を模写して伝えるようになりました。この八人の高僧を真言の八祖と呼びます。林光寺に伝わる八祖像は東大寺にある八祖像の何代目かの模写といわれています。模写するなかで時代の変化や作者の作風が加わり独自の作品となりますが、林光寺のものは室町時代の作風で絹地に静かな筆の運びで写實的に描かれています。この八祖像は七月の盆供や八月の施餓鬼などで掛けられ、見る者をおごそかな気持ちで満たします。

工芸品 林光寺銅鐘

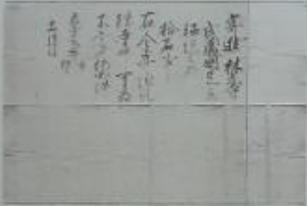
全高 一四六・四cm 口径 七五cm

指定 昭和五十年二月七日

江戸時代後期の安永五年(一七七六)に江戸の鑄工西村和泉守藤原政時により造られました。四か所に鐘をつく撞座があり、各撞座の上に仏法を守護する四天王(持国天・広目天・增長天・多聞天)が見事に浮き彫りされています。第二次世界大戦時の物資の不足に際しては、あまりにも見事な出来であるため供出からも免れ、その音を今に響かせています。その音色が素晴らしいのは鑄造にあたり、村々の人々がかんざしなどを混ぜたためといわれ、当時の村人の祈りがこめられているからでしょう。この銅鐘は折々のお寺の行事の時につかれ、とくに大晦日の除夜の鐘は一般の参拝者もつくことができ、善男善女で賑わいます。過ぎた一年を省みて、新しい年への希望をもって一人ひとり神妙な面持ちで鐘をつきます。

古文書 林光寺朱印状

指定 昭和五十五年六月六日



天正十八年(一五九〇)江戸城に入った家康は、翌年関東の寺院などに寺領の保護を約束しますが、この約束を書き記したのが朱印状です。市内では九か寺が徳川家から寺領を拝領し、そのうちの七か寺が西部地区に集中しています。林光寺の朱印状には殖絶(植田谷本のこと)の内に十石の寺領を寄進する旨が記されており、家康を初めとして計十二通が現存しています。

天然記念物 林光寺の大ケヤキ

指定 昭和五十年二月七日

樹高 二五m 目どおり 三・六五m 枝張り 東西二五・三m 南北二四m
本堂の裏手北東側にあり、植水地区一番の大木です。夏にはみずみずしい緑で本堂の屋根を覆う姿、冬には澄みわたる青空にりりしくそびえる姿を遠望することができます。ケヤキは比較的長寿の樹木といわれていますが、この木は若木で樹勢も良く、木肌も細やかで、樹冠部の枝を見事に箒型に広がっています。樹勢・形姿ともに優れた大ケヤキです。

平成二年三月

大宮市教育委員会

水判土(みずはた)の慈眼寺前の鴨川の橋から右側前方に林光寺遺跡方向を見る



同じく左手は水判土堀ノ内遺跡方向



正面が慈眼寺



大宮水波田観音 慈眼寺







左が仁王門、右は鐘楼(いずれも平成に入って増改築している)



第四番札所 普光山 慈眼寺



仁王門

仁王門から観音堂を見る



参考ホームページ <http://blogs.yahoo.co.jp/rsjir083/26837050.html>





